

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077200121		
法人名	医療法人 波多江外科医院		
事業所名	グループホーム・あかり		
所在地	福岡県糸島市志摩小富士258番地		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果確定日	令和6年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻 4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和5年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<p>法人全体で地域の方々に必要なサービスを提供できるように多機能化に努めている。クリニックや老人保健施設が併設であることにより医療面での支援が厚く、利用者が安心して生活できる環境が整っている。海や山が近く自然に恵まれた環境であるのに加え、施設内にも花壇や畑があるので利用者が季節の花や野菜を育てることができる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>糸島市にて地域医療に携わる医療法人波多江外科医院が、老健を核とする「志摩老健センター パキス」の中に、平成12年以降3ユニットより成る「グループホームあかり」を開設、最初に開設した1ユニットと、あとから開設した2ユニット(一般的には「グループホームゆうゆう」と称している)とは別の建物にある。パキスは福岡と唐津をつなぐ54号線に面し、アクセスも良好、デイケア・デイサービス・居宅も併設、広大な敷地内には庭園や農園もある。計3ユニットのグループホームは、認知症のために在宅生活が難しくなってきた方が、住み慣れた地域でいつまでも暮らしていけるように、との願いを込めて開設したもの。理事長(医師)は毎日訪れており、医療連携が密接にできることから、利用者の健康の維持につながっている。コロナ禍のため外出などには制限が生じているものの、地域と友好関係を築いている。家族も面会に訪れるなど、協力的で提案もある。事業所は職員の働きやすい職場環境を目指しており、職員もそれにこたえるかのように、士気向上につなげている。今後も、チームで一丸となって、地域福祉の中心となる事業展開が期待される。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果		自己評価 Y1		自己評価 Y2		自己評価 A		外部評価	
己	部外	項目	実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営									
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の人格を尊重した自立支援と地域密着を主体とした「住み慣れた地域であなたの大切な一日を心豊かに」という理念を作成しており、ホームの玄関など目につく場所に掲示して、日々意義を考えながら仕事ができるようにしている。	利用者の人格を尊重した自立支援と地域密着を主体とした「住み慣れた地域であなたの大切な一日を心豊かに」という理念を作成しており、ホームの玄関など目につく場所に掲示して、日々意義を考えながら仕事ができるようにしている。	利用者の人格を尊重した自立支援と地域密着を主体とした「住み慣れた地域であなたの大切な一日を心豊かに」という理念を作成しており、ホームの玄関など目につく場所に掲示して、日々意義を考えながら仕事ができるようにしている。	「住み慣れた地域であなたの大切な一日を心豊かに」という理念は事業所内に掲示されている。理念には、慣れ親しんだ場所ですらいつでも安心して暮らしていただけるようにとの願いと、事業所としてそれに寄り添っていかうとの思いが込められている。理念の実践をベースにしたホーム長による個人面談も年2回なされている。職員は理念を咀嚼して共有しており、日常のケアを通してその実践につなげている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は毎月の行事に地域のボランティア団体や小・中学生が来てくださったりと、地域の方たちが盆踊りや子供神輿を披露しに来てくださった。また、近隣の店に昼食、喫茶、買い物に行き、お店の人と顔見知りになっていた。今年の6月以降(コロナウィルスが5類になり)毎月ではないがボランティアの方と行事を通して交流を持てるようになった。コロナ禍で控えていた外出も少しずつできるようになり、近所の店で日用品など買い物をしていた。	コロナ前は毎月の行事に地域のボランティア団体や小・中学生が来てくださったりと、地域の方たちが盆踊りや子供神輿を披露しに来てくださった。また、近隣の店に昼食、喫茶、買い物に行き、お店の人と顔見知りになっていた。今年の6月以降(コロナウィルスが5類になり)毎月ではないがボランティアの方と行事を通して交流を持てるようになった。コロナ禍で控えていた外出も少しずつできるようになり、地域の文化会館に踊りや歌を見に行った。	コロナ前は毎月の行事に地域のボランティア団体や小・中学生が来てくださったりと、地域の方たちが盆踊りや子供神輿を披露しに来てくださった。また、近隣の店に昼食、喫茶、買い物に行き、お店の人と顔見知りになっていた。今年の6月以降(コロナウィルスが5類になり)毎月ではないがボランティアの方と行事を通して交流を持てるようになった。コロナ禍で控えていた外出も少しずつできるようになり、近所の店で日用品など買い物をしていた。	コロナ禍により、地域との交流は中止もしくは縮小せざるを得ない状況が続いていたが、コロナウィルスが5類になって、また落ち着きを見せたこともあり、意識的に機会を増やしている。地域の夏祭り際には、踊りのボランティアや子供会の神輿が事業所を訪れてくれた。認知症カフェに参加(送迎による)したり、伊都文化会館で披露される民謡や詩吟を見に行ったりした。敬老会は事業所内で行ったが、糸島市長が訪れるというサプライズがあった。外出も無理のない範囲で徐々に増やしているが、調査時は、市内の神社や寺院の手水(ちようず)に花を生ける「糸島花手水」の企画の開催が迫っていて、地域の方の参加もあって、事業所でも楽しみにしている様子が見られた。事業所側には地域と良好な関係を継続したい気持ち強い。	年1回利用者のファッションショーを事業所内で行い、日頃は別人のような写真におさめられているが、せかくなので、家族や近隣住民らにアナウンスしてみたいかがでしよう。地域との交流は、どうしてもコロナ感染対策との視み合わせになり、現状では、学生の実習を受け入れたり、児童クラブのお菓子を入れる箱を利用者が作って提供したり、という事などは、今後再開を検討するところとなっている。コロナの懸念が完全に払拭されるまでにはまだ時間を要すると思われるが、暫くの間は工夫をして可能な限り地域との交流を図り、また同時に、完全収束後の再開を目指して構想を練り準備していただきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げて認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前には、中学生の体験学習や専門学校生の実習を受け入れており、高齢者や認知症という病気への理解を深めてもらうことで、地域で高齢者が暮らしやすくなるように努めている。	コロナ前には、中学生の体験学習や専門学校生の実習を受け入れており、高齢者や認知症という病気への理解を深めてもらうことで、地域で高齢者が暮らしやすくなるように努めている。	コロナ前には、中学生の体験学習や専門学校生の実習を受け入れており、高齢者や認知症という病気への理解を深めてもらうことで、地域で高齢者が暮らしやすくなるように努めている。				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所だよりを見てもらいながら、利用者やサービスの実際を報告し、出席者全員が話し合いに参加できるように配慮している。会議での意見はホームのミーティングや申し送りなどを通じて職員に伝達し、日々のサービスに反映している。	事業所だよりを見てもらいながら、利用者やサービスの実際を報告し、出席者全員が話し合いに参加できるように配慮している。会議での意見はホームのミーティングや申し送りなどを通じて職員に伝達し、日々のサービスに反映している。	事業所だよりを見てもらいながら、利用者やサービスの実際を報告し、出席者全員が話し合いに参加できるように配慮している。会議での意見はホームのミーティングや申し送りなどを通じて職員に伝達し、日々のサービスに反映している。	2ヶ月に1回の定期開催は続けられている。民生委員、地域包括の他、家族も毎回事業所より指定された1家族が出席している。状況の報告を行い、併せて予め事前に家族から聞き取った意見についての検討、情報交換などを行っている。議事録は玄関にて閲覧ができる。		軌道には乗っているが、参加メンバーが少なく、盛り上がり不足のために会議の内容についてフィードバックを行い、併せて改めて参加者の顔触れ(毎回のテーマに即して、単発での出席者の検討してはいかかでしょう。たとえば認知症の薬剤や感染症の事などについて、薬局の方を招く、とか…)や議事内容の充実(昼食やおやつを試食とか、避難訓練と同時開催などはいかがでしょう)を図って、意見をサービスに生かしていただくことを提案したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現状を伝え、情報やアドバイスを得ている。また、以前に主任が糸島地区介護保険事業者連絡会の地域密着部会の会長を1年努めるなど、協力関係を築いている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現状を伝え、情報やアドバイスを得ている。また、以前に主任が糸島地区介護保険事業者連絡会の地域密着部会の会長を1年努めるなど、協力関係を築いている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現状を伝え、情報やアドバイスを得ている。また、以前に主任が糸島地区介護保険事業者連絡会の地域密着部会の会長を1年努めるなど、協力関係を築いている。	事業所は、協力体制の重要性を認識しており、報告や困難事例・コロナ関連の相談、情報交換、運営推進会議参加(包括)、空室状況や入居希望者の確認などを通して、行政や地域包括担当者とは懸念になっており、円満な関係が築けている。介護認定申請や運営推進会議関連の書類などは直接持参している。糸島地区介護保険事業者連絡会への参加もある。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていない。定期的に身体拘束の勉強会を行っており、身体拘束が与える影響について正しく理解している。日中の施錠をせずに、センサーで対応している。	現在、身体拘束は行っていない。定期的に身体拘束の勉強会を行っており、身体拘束が与える影響について正しく理解している。日中の施錠をせずに、センサーで対応している。	現在、身体拘束は行っていない。定期的に身体拘束の勉強会を行っており、身体拘束が与える影響について正しく理解している。日中の施錠をせずに、センサーで対応している。	事業所の玄関は夜間のみ施錠としており、離脱傾向に対しては見守りおよびセンサーでの対応に加え、エレベーターのボタンにカバーを付けている。身体拘束廃止委員会(月1回)があり、併せて研修(年1回)を通して、身体上の拘束や不適切なケアに加えてスピーチロックについても、全職員を対象に学ぶ機会を作っている。現在、拘束の事例はない。			

R5.11 自己評価及び外部評価(グループホームあり)確定

己自部外	項目	自己評価 Y1	自己評価 Y2	自己評価 A	外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待の勉強会を行っている。入所施設なので、自宅での虐待にかかわることはほとんどない。事業所内では、不穏な利用者に対し職員が虐待を行うことがないように、ミーティングで利用者についての情報を共有し、現場では声をかけあったり交代して対応したりして防止に努めている。	定期的に高齢者虐待の勉強会を行っている。入所施設なので、自宅での虐待にかかわることはほとんどない。事業所内では、不穏な利用者に対し職員が虐待を行うことがないように、ミーティングで利用者についての情報を共有し、現場では声をかけあったり交代して対応したりして防止に努めている。	定期的に高齢者虐待の勉強会を行っている。入所施設なので、自宅での虐待にかかわることはほとんどない。事業所内では、不穏な利用者に対し職員が虐待を行うことがないように、ミーティングで利用者についての情報を共有し、現場では声をかけあったり交代して対応したりして防止に努めている。		
8	(6) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護の制度について勉強会を行っている。制度についてのパンフレットも作成しており、相談があったりお勧めした方が良いと思われる方については、制度の説明やアドバイスを行っている。	定期的に権利擁護の制度について勉強会を行っている。制度についてのパンフレットも作成しており、相談があったりお勧めした方が良いと思われる方については、制度の説明やアドバイスを行っている。	定期的に権利擁護の制度について勉強会を行っている。制度についてのパンフレットも作成しており、相談があったりお勧めした方が良いと思われる方については、制度の説明やアドバイスを行っている。	成年後見制度を2名の方が利用されており(うち1名は事業所にて一連の手続きをとった)、職員は日常的なやりとりや内部研修などから、認識は持ち合わせている。事業所としては利用者側から求めがあった場合に備えてパンフレットを作成(常備)しており、必要時には管理者が説明して行政(包括)につなぐ体制が整っている。事業所側から提案を行う事もある。	
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や相談、重要事項の説明などを行う中で、利用者や家族の希望や不安を聞き取り、ホームでできること・できないことを説明し、理解・納得してもらった上で、契約を結んでいる。また、改定の際にも個別に面談して説明を行い、同意を得ている。	見学や相談、重要事項の説明などを行う中で、利用者や家族の希望や不安を聞き取り、ホームでできること・できないことを説明し、理解・納得してもらった上で、契約を結んでいる。また、改定の際にも個別に面談して説明を行い、同意を得ている。	見学や相談、重要事項の説明などを行う中で、利用者や家族の希望や不安を聞き取り、ホームでできること・できないことを説明し、理解・納得してもらった上で、契約を結んでいる。また、改定の際にも個別に面談して説明を行い、同意を得ている。		
10	(7) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と個別に話す機会を持つ中で、希望や不満などを聞き取るようにしており、意見があった場合はミーティングなどで話し合い対応している。玄関には意見箱を設置している。家族からは面会やケアプラン交付時に希望や意見を聞き取るようにしている。運営推進会議に交代で出席してもらい、意見をサービスに反映させている。	利用者と個別に話す機会を持つ中で、希望や不満などを聞き取るようにしており、意見があった場合はミーティングなどで話し合い対応している。玄関には意見箱を設置している。家族からは面会やケアプラン交付時に希望や意見を聞き取るようにしている。運営推進会議に交代で出席してもらい、意見をサービスに反映させている。	利用者と個別に話す機会を持つ中で、希望や不満などを聞き取るようにしており、意見があった場合はミーティングなどで話し合い対応している。玄関には意見箱を設置している。家族からは面会やケアプラン交付時に希望や意見を聞き取るようにしている。運営推進会議に交代で出席してもらい、意見をサービスに反映させている。	運営推進会議に参加する家族もおり、コロナ禍で現在は1回30分以内(3名以下で14:00~16:00の間で、としつても、利用者の部屋まで通している)との制限を設けている面会にも積極的に訪れており、家族からの意見は直接口頭で聞くことが多い。月1回ユニットの責任者が写真付のおたよりを、また「ボックス便り」も家族に郵送して、近況報告を綴っている。意見箱も、投函はないが設置している。利用者からは随時職員が要望を聴く。利用者・家族の思いは全職員が共有し、また運営に反映している。	家族会を、「一日喫茶」というユニークなスタイルで開催していたが、中止となっている、と聞く。家族同士があまりかたくならず打ち解けて話ができる機会の見直しは、家族にとっても事業所にとっても、非常に良いことである。
11	(8) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員から意見や提案を出しやすいよう日頃から話を聞く機会を作っているが、細かな希望や不満を吸収するために定期的に個別ミーティングも行い、意見や提案に対する返答を行っている。必要に応じて管理者から代表者へ報告や相談の機会を設けており、適切な助言を受けている。	管理者は、職員から意見や提案を出しやすいよう日頃から話を聞く機会を作っているが、細かな希望や不満を吸収するために定期的に個別ミーティングも行い、意見や提案に対する返答を行っている。必要に応じて管理者から代表者へ報告や相談の機会を設けており、適切な助言を受けている。	管理者は、職員から意見や提案を出しやすいよう日頃から話を聞く機会を作っているが、細かな希望や不満を吸収するために定期的に個別ミーティングも行い、意見や提案に対する返答を行っている。必要に応じて管理者から代表者へ報告や相談の機会を設けており、適切な助言を受けている。	職場内の風通しは良く、職員は、会議の場でも、また日常の現場でも、些細な事を含めて積極的に意見や提案を述べることができ、管理者もそれを前向きに受け止め、迅速に対応する。年2回個別面談の機会がある。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の努力や実績、勤務状況について報告を受けている。また、実際に勤務している現場を見る機会も多いため、的確に状況を把握でき、職場環境や条件の整備を行っている。	代表者は、職員の努力や実績、勤務状況について報告を受けている。また、実際に勤務している現場を見る機会も多いため、的確に状況を把握でき、職場環境や条件の整備を行っている。	代表者は、職員の努力や実績、勤務状況について報告を受けている。また、実際に勤務している現場を見る機会も多いため、的確に状況を把握でき、職場環境や条件の整備を行っている。		
13	(9) ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用に当たっては、年齢・性別共に幅広く人材を求めている。今までの経歴や特技などを尊重し、仕事の中でそれぞれの能力を発揮できるような場をつくるようにしている。	募集・採用に当たっては、年齢・性別共に幅広く人材を求めている。今までの経歴や特技などを尊重し、仕事の中でそれぞれの能力を発揮できるような場をつくるようにしている。	募集・採用に当たっては、年齢・性別共に幅広く人材を求めている。今までの経歴や特技などを尊重し、仕事の中でそれぞれの能力を発揮できるような場をつくるようにしている。	20歳代~70歳代の幅広い年齢層の職員が、個々の能力や特技を勤務に活かして、また提案や試行錯誤を繰り返しながら、生き生きと仕事をしている。事業所として、休憩時間の確保、希望の休みやシフトの考慮もなされており、また上級資格の取得や外部研修への参加にも前向きで、スキルアップに努めている。職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由として採用対象から排除しないようにしている。	

R5.11 自己評価及び外部評価(グループホームあり)確定

己	自部外	項目	自己評価 Y1	自己評価 Y2	自己評価 A	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的な接遇（特に入居者に対する声掛けや言葉使いに関して）の研修を行っている。ケアプラン策定時やミーティングの時に、どういサービスが人権を尊重していることにつながるか、侵害することにつながるかを念頭に置いて話し合うことで、職員に基本姿勢として意識付けられるよう努めている。	定期的な接遇（特に入居者に対する声掛けや言葉使いに関して）の研修を行っている。ケアプラン策定時やミーティングの時に、どういサービスが人権を尊重していることにつながるか、侵害することにつながるかを念頭に置いて話し合うことで、職員に基本姿勢として意識付けられるよう努めている。	定期的な接遇（特に入居者に対する声掛けや言葉使いに関して）の研修を行っている。ケアプラン策定時やミーティングの時に、どういサービスが人権を尊重していることにつながるか、侵害することにつながるかを念頭に置いて話し合うことで、職員に基本姿勢として意識付けられるよう努めている。	接遇の研修を行う中で、虐待防止や権利擁護、法令遵守、認知症高齢者に対する理解などについても触れており、また法人としての勉強会も行われるなど、職員の認識を深めて啓発に努めている。	内容は難しく、また多岐にわたるものでもあり、DVDや講師派遣の利用も勧めさせていただきたい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームで定期的に計画して勉強会を行っているのに加え、併設施設との合同勉強会も行っている。また、コロナ前は地域の事業者連絡会で行われている勉強会や保健所主催の研修にも参加しており、働きながら学べる体制づくりに努めている。また、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員の資格を積極的に取得するよう職員に勧めている。	ホームで定期的に計画して勉強会を行っているのに加え、併設施設との合同勉強会も行っている。また、コロナ前は地域の事業者連絡会で行われている勉強会や保健所主催の研修にも参加しており、働きながら学べる体制づくりに努めている。また、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員の資格を積極的に取得するよう職員に勧めている。	ホームで定期的に計画して勉強会を行っているのに加え、併設施設との合同勉強会も行っている。また、コロナ前は地域の事業者連絡会で行われている勉強会や保健所主催の研修にも参加しており、働きながら学べる体制づくりに努めている。また、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員の資格を積極的に取得するよう職員に勧めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前は、地域密着サービスの事業者連絡会に参加していた。研修も兼ねて行われることが多いため、内容によって参加する職員を決めており、参加した職員はミーティングなどで研修内容の伝達を行っていた。他施設を訪問する研修もある。	コロナ前は、地域密着サービスの事業者連絡会に参加していた。研修も兼ねて行われることが多いため、内容によって参加する職員を決めており、参加した職員はミーティングなどで研修内容の伝達を行っていた。他施設を訪問する研修もある。	コロナ前は、地域密着サービスの事業者連絡会に参加していた。研修も兼ねて行われることが多いため、内容によって参加する職員を決めており、参加した職員はミーティングなどで研修内容の伝達を行っていた。他施設を訪問する研修もある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面接して話す機会を持っている。できれば入居する部屋やロビーなどを見ていただき、どうい住まいにしたいか、どう過ごしたいかなどと一緒に考えていけるように努めている。	入居前に本人と面接して話す機会を持っている。できれば入居する部屋やロビーなどを見ていただき、どうい住まいにしたいか、どう過ごしたいかなどと一緒に考えていけるように努めている。	入居前に本人と面接して話す機会を持っている。できれば入居する部屋やロビーなどを見ていただき、どうい住まいにしたいか、どう過ごしたいかなどと一緒に考えていけるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面接や電話で相談を重ね、本人と家族の状況を聞きながら、ホームに対しての希望や不安を聞き取るようにしている。ホームでできること、できないことを説明し、入居してから本人・家族共によりよく過ごして頂けるように努めている。	入居前に家族と面接や電話で相談を重ね、本人と家族の状況を聞きながら、ホームに対しての希望や不安を聞き取るようにしている。ホームでできること、できないことを説明し、入居してから本人・家族共によりよく過ごして頂けるように努めている。	入居前に家族と面接や電話で相談を重ね、本人と家族の状況を聞きながら、ホームに対しての希望や不安を聞き取るようにしている。ホームでできること、できないことを説明し、入居してから本人・家族共によりよく過ごして頂けるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けてもすぐに入居できない場合が多いので、通所やショートステイなどのサービスを利用してもらうながら、待機の時間を入所への準備期間として考えてもらうように勧めている。どうしても在宅介護が困難になっておられる場合は、他の入所施設の紹介も行っている。	相談を受けてもすぐに入居できない場合が多いので、通所やショートステイなどのサービスを利用してもらうながら、待機の時間を入所への準備期間として考えてもらうように勧めている。どうしても在宅介護が困難になっておられる場合は、他の入所施設の紹介も行っている。	相談を受けてもすぐに入居できない場合が多いので、通所やショートステイなどのサービスを利用してもらうながら、待機の時間を入所への準備期間として考えてもらうように勧めている。どうしても在宅介護が困難になっておられる場合は、他の入所施設の紹介も行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	プランターでの野菜作りや縫物・紐の結び方など本人の得意なことを教えてもらいながら一緒に活動を行うようにしている。また、ことわざや方言、昔からのしきたりなどの意味を教えてもらったり、若い頃の様々な体験や人生観をお聞きしたりと、人生の先輩として多くのことを学ばせて頂いている。	料理や習字など本人の得意なことを教えてもらいながら一緒に活動を行うようにしている。また、ことわざや方言、昔からのしきたりなどの意味を教えてもらったり、若い頃の様々な体験や人生観をお聞きしたりと、人生の先輩として多くのことを学ばせて頂いている。	プランターでの野菜作りや縫物・紐の結び方など本人の得意なことを教えてもらいながら一緒に活動を行うようにしている。また、ことわざや方言、昔からのしきたりなどの意味を教えてもらったり、若い頃の様々な体験や人生観をお聞きしたりと、人生の先輩として多くのことを学ばせて頂いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族宛に手紙で様子をお伝えしたり、状態などの変化があればその都度電話にて報告をさせて頂き、共に支えていく関係づくりに配慮している。	毎月ご家族宛に手紙で様子をお伝えしたり、状態などの変化があればその都度電話にて報告をさせて頂き、共に支えていく関係づくりに配慮している。	毎月ご家族宛に手紙で様子をお伝えしたり、状態などの変化があればその都度電話にて報告をさせて頂き、共に支えていく関係づくりに配慮している。		

R5.11 自己評価及び外部評価(グループホームあり)確定

己	自部外	項目	自己評価 Y1	自己評価 Y2	自己評価 A	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため外出に制限はあるが、ドライブで糸島のさまざまな地域に出かけ、昔ながらの景色を楽しんでもらったり、個別対応で自宅周辺にお連れしたりしている。また、ご家族の協力を得ながら、関係が途切れないように努めている。	コロナ禍で外出に制限があった時期は、ドライブで糸島のさまざまな地域に出かけ、昔ながらの景色を楽しんでもらっていた。また、ご家族の協力を得ながら関係が途切れないように、面会制限時も予約をして頂くことで、直接ではないが超越しての面会を行っていた。	コロナ禍のため外出に制限はあるが、ドライブで糸島のさまざまな地域に出かけ、昔ながらの景色を楽しんでもらったり、個別対応で自宅にお連れしたりしている(車椅子の方で職員が送迎)。また、ご家族の協力を得ながら、関係が途切れないように努めている。	コロナ禍での制約がまだ続いている状況もあるが、それでも限られた範囲の中で、家族との外出(外食、外泊も可)、事業所を訪れる訪問理美容(希望に応じてパーマやカラーも可)、近隣の散歩などを通じての近隣住民らとの交流、自宅周辺や思い出の場所へのドライブ、畑仕事をしてきた方にとっては懐かしさを感じるであろう「土いじり」…その他、電話や手紙でのやり取りなどを通して、事業所は支援を続けている。馴染みの事柄との結びつきの継続は、刺激を誘発することにもつながると考えている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ロビーで利用者が一緒に過ごしたり活動したりできるようにしている。また、利用者同士の相性を見ながら、席の配置を決めたり、散歩や外出の組み合わせを考えている。(トラブルになりそうな場合は事前に職員が間に入る)レクリエーションに誰でも参加しやすいように、利用者に応じてサポートの方法を変えるなど工夫している。	ロビーで利用者が一緒に過ごしたり活動したりできるようにしている。また、利用者同士の相性を見ながら、席の配置を決めたり、散歩や外出の組み合わせを考えている。(トラブルになりそうな場合は事前に職員が間に入る)レクリエーションに誰でも参加しやすいように、利用者に応じてサポートの方法を変えるなど工夫している。	ロビーで利用者が一緒に過ごしたり活動したりできるようにしている。また、利用者同士の相性を見ながら、席の配置を決めたり、散歩や外出の組み合わせを考えている。(トラブルになりそうな場合は事前に職員が間に入る)レクリエーションに誰でも参加しやすいように、利用者に応じてサポートの方法を変えるなど工夫している。			
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は併設施設に入所される方もおられるので、利用者・家族共に継続的に関わりを持ち、相談にのっている。入院された場合も、経過を観ながら、必要に応じて相談のつたり病院と連絡を取りあったりして支援を行っており、再入居につながることもある。	退居後は併設施設に入所される方もおられるので、利用者・家族共に継続的に関わりを持ち、相談にのっている。入院された場合も、経過を観ながら、必要に応じて相談のつたり病院と連絡を取りあったりして支援を行っており、再入居につながることもある。	退居後は併設施設に入所される方もおられるので、利用者・家族共に継続的に関わりを持ち、相談にのっている。入院された場合も、経過を観ながら、必要に応じて相談のつたり病院と連絡を取りあったりして支援を行っており、再入居につながることもある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活リズムや意向を尊重し、本人や家族と相談しながら、日課や活動を強制せずに本人のペースで暮らしていただけるよう努めている。体調に応じて休息の時間を長めにとるなど、個人の心身状況に合わせて過ごしてもらえよう配慮している。コーヒーやお菓子など本人のお好きなのを個人分として預かり、希望を聞きながら提供している。	本人の生活リズムや意向を尊重し、本人や家族と相談しながら、日課や活動を強制せずに本人のペースで暮らしていただけるよう努めている。体調に応じて休息の時間を長めにとるなど、個人の心身状況に合わせて過ごしてもらえよう配慮している。コーヒーやお菓子・パンなど本人のお好きなのを個人分として預かり、希望を聞きながら提供している。	本人の生活リズムや意向を尊重し、本人や家族と相談しながら、日課や活動を強制せずに本人のペースで暮らしていただけるよう努めている。体調に応じて休息の時間を長めにとるなど、個人の心身状況に合わせて過ごしてもらえよう配慮している。コーヒーやお菓子・パンなど本人のお好きなのを個人分として預かり、希望を聞きながら提供している。	本人や家族から聴き取りを積極的に行い、希望や生活のスタイルなどの意向を把握することに努めている。本人の意思疎通が難しい場合は、これまでの経歴からの掘り起こしや日頃の観察に加え、選択肢を設けてそこから自らが選ぶといったスタイルをとるよう工夫をして、要望に沿える支援を行っている。思いや意向を極み共有することで、個々のペースでの生活の充実役に役立っている。思いや願いを叶えるお手伝いとして、嗜好品(お菓子、飲み物など)を事業所側から提供するのではなく、希望の物を選んでもらったり、リクエストしてもらったり、といった機会を設けるようにしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の仕事や趣味、得意分野を聞き取り、活躍の場や話題を提供して、経験を活かせるようにしている。入居前の習慣や日課などできるだけ継続できるように努めている(プランターで野菜やお花を育ててもらったり、裁縫など)。昔のアルバムを持って来てもらい、写真を見ながら話を聞かせてもらっている方もある。	以前の仕事や趣味、得意分野を聞き取り、活躍の場や話題を提供して、経験を活かせるようにしている。入居前の習慣や日課などできるだけ継続できるように努めている(プランターで野菜やお花を育ててもらったり、達筆の方創作活動の字を書いてもらうなど)。昔のアルバムを持って来てもらい、写真を見ながら話を聞かせてもらっている方もある。	以前の仕事や趣味、得意分野を聞き取り、活躍の場や話題を提供して、経験を活かせるようにしている。入居前の習慣や日課などできるだけ継続できるように努めている(プランターで野菜やお花を育ててもらったり、将棋を楽しんでもらうなど)。昔のアルバムを持って来てもらい、写真を見ながら話を聞かせてもらっている方もある。			
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の今までの生活でしていたこと、心身状況からできると思われることは時間がかかっても自分でされるよう支援し、日々の観察や働きかけにより、潜在能力を発揮してもらえよう努めている。記録をこまめに残すことで情報を共有し、できたことのみならず、できなかったこと、できなくなったことも把握できるようにしている。	本人の今までの生活でしていたこと、心身状況からできると思われることは時間がかかっても自分でされるよう支援し、日々の観察や働きかけにより、潜在能力を発揮してもらえよう努めている。記録をこまめに残すことで情報を共有し、できたことのみならず、できなかったこと、できなくなったことも把握できるようにしている。	本人の今までの生活でしていたこと、心身状況からできると思われることは時間がかかっても自分でされるよう支援し、日々の観察や働きかけにより、潜在能力を発揮してもらえよう努めている。記録をこまめに残すことで情報を共有し、できたことのみならず、できなかったこと、できなくなったことも把握できるようにしている。			
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人や家族の意見を反映できるように、面会時の聞き取りだけでなく、希望等を記入する書類をお渡しして具体的に聞き取れるように努めている。介護職員とケアマネージャー、主治医、併設施設の看護師、リハビリ職員、相談員が出席する会議で意見交換した上で作成している。計画は家族に説明し、同意を得て交付している。毎月、モニタリングで情報を共有しながらモニタリングを行っている。	介護計画は本人や家族の意見を反映できるように、面会時の聞き取りだけでなく、希望等を記入する書類をお渡しして具体的に聞き取れるように努めている。介護職員とケアマネージャー、主治医、併設施設の看護師、リハビリ職員、相談員が出席する会議で意見交換した上で作成している。計画は家族に説明し、同意を得て交付している。毎月、モニタリングで情報を共有しながらモニタリングを行っている。	介護計画は本人や家族の意見を反映できるように、面会時の聞き取りだけでなく、希望等を記入する書類をお渡しして具体的に聞き取れるように努めている。介護職員とケアマネージャー、主治医、併設施設の看護師、リハビリ職員、相談員が出席する会議で意見交換した上で作成している。計画は家族に説明し、同意を得て交付している。毎月、モニタリングで情報を共有しながらモニタリングを行っている。	職員は担当利用者のアセスメント、モニタリング、家族対応などを行う。プランには、本人や家族の意向や満足度(介護計画立案の前段階として、家族に希望などを用紙に記入してもらい、面談の際に聴取してきたことなど併せて、反映させる)、目標の達成状況を踏まえての新しい目標などが盛り込まれ、全職員が共有のうえ、随時～1年で見直しをする。担当者会議の記録には、医師、多職種の方などの意見を付しており、チームとしての取組となっている。		

R5.11 自己評価及び外部評価(グループホームあり)確定

己自部外	項目	自己評価 Y1	自己評価 Y2	自己評価 A	外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとのカルテがあり、心身状態や医療情報などが記録されている。日々のケアだけでなく、ケアプランの実践記録も個別の介護記録に記入されている。毎月のミーティングでは、個人別に職員の間で情報交換・共有し、介護計画のモニタリングと見直しを行っている。	個人ごとのカルテがあり、心身状態や医療情報などが記録されている。日々のケアだけでなく、ケアプランの実践記録も個別の介護記録に記入されている。毎月のミーティングでは、個人別に職員の間で情報交換・共有し、介護計画のモニタリングと見直しを行っている。	個人ごとのカルテがあり、心身状態や医療情報などが記録されている。日々のケアだけでなく、ケアプランの実践記録も個別の介護記録に記入されている。毎月のミーティングでは、個人別に職員の間で情報交換・共有し、介護計画のモニタリングと見直しを行っている。		
30	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスを捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所は併設施設と連携し「通う、泊まる、住む」機能を備えている。利用者は状況や要望に応じて、馴染みの生活環境をできるだけ継続しつつ様々なサービスを利用することができる。入居してからは、併設施設との24時間の医療連携体制に加え、リハビリ施設の利用もでき、重度になられても法人全体で最後まで対応していくという姿勢で、利用者や家族の方に安心感を持って頂いている。	事業所は併設施設と連携し「通う、泊まる、住む」機能を備えている。利用者は状況や要望に応じて、馴染みの生活環境をできるだけ継続しつつ様々なサービスを利用することができる。入居してからは、併設施設との24時間の医療連携体制に加え、リハビリ施設の利用もでき、重度になられても法人全体で最後まで対応していくという姿勢で、利用者や家族の方に安心感を持って頂いている。	事業所は併設施設と連携し「通う、泊まる、住む」機能を備えている。利用者は状況や要望に応じて、馴染みの生活環境をできるだけ継続しつつ様々なサービスを利用することができる。入居してからは、併設施設との24時間の医療連携体制に加え、リハビリ施設の利用もでき、重度になられても法人全体で最後まで対応していくという姿勢で、利用者や家族の方に安心感を持って頂いている。		
31	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前には、喫茶(模擬店)を開く時に地域のボランティア団体から手伝いに来てもらったり、サークル(コーラスやドッグセラピーなど)の講師として地域の方に定期的に来てもらったりしていた。また、図書館の利用や歴史資料館・文化会館にイベントを見に行っていた。運営推進会議には地域の民生委員の方が出席して下さる。	コロナ前には、喫茶(模擬店)を開く時に地域のボランティア団体から手伝いに来てもらったり、サークル(コーラスやドッグセラピーなど)の講師として地域の方に定期的に来てもらったりしていた。また、図書館の利用や歴史資料館・文化会館にイベントを見に行っていた。運営推進会議には地域の民生委員の方が出席して下さる。	コロナ前には、喫茶(模擬店)を開く時に地域のボランティア団体から手伝いに来てもらったり、サークル(コーラスやドッグセラピーなど)の講師として地域の方に定期的に来てもらったりしていた。また、歴史資料館や文化会館にイベントを見に行っていた。運営推進会議には地域の民生委員の方が出席して下さる。		
32 (14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族と相談し、かかりつけ医や受診方法を決めている。訪問診療以外は原則、家族が本人と一緒に受診してもらうようにしているが、家族だけで難しい場合(車椅子での移動の方)や、皮膚の状態など目頃から見ており直接ケアしている職員が説明した方が良い方などは、職員も同行する。また、受診時には、主治医から受診先へ診療情報提供書を出すようにしている。歯については往診に来て下さる歯科がある。	入居時に本人・家族と相談し、かかりつけ医や受診方法を決めている。訪問診療以外は原則、家族が本人と一緒に受診してもらうようにしているが、家族だけで難しい場合(車椅子での移動の方)や、皮膚の状態など目頃から見ており直接ケアしている職員が説明した方が良い方などは、職員も同行する。また、受診時には、主治医から受診先へ診療情報提供書を出すようにしている。歯については往診に来て下さる歯科がある。	入居時に本人・家族と相談し、かかりつけ医や受診方法を決めている。訪問診療以外は原則、家族が本人と一緒に受診してもらうようにしているが、家族だけで難しい場合(車椅子での移動の方)や、皮膚の状態など目頃から見ており直接ケアしている職員が説明した方が良い方などは、職員も同行する。また、受診時には、主治医から受診先へ診療情報提供書を出すようにしている。歯については往診に来て下さる歯科がある。	母体法人の理事長(医師)が毎日訪問されており、また急な往診も対応する。母体法人をかかりつけ医とするケースが多いが、希望があれば以前からのかかりつけ医の継続も自由。ただその場合や他科受診(歯科は基本的に訪問診療)については、通院介助は基本的には家族で行う(車いすでの移動を要する場合には職員が同行する場合もある)。敷地内の老健の看護師が訪問されることもあり、日常的な相談や観察、緊急時の迅速な対応ができる。家族に対して密に報告して情報を共有することで、家族の安心につながっている。	
33	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設と医療連携体制をとっているため、看護師と24時間連絡が取れ、相談や訪問を受けられるようになっている。また、毎日訪問を受け、入居者の健康状態を把握してもらっている。	併設施設と医療連携体制をとっているため、看護師と24時間連絡が取れ、相談や訪問を受けられるようになっている。また、毎日訪問を受け、入居者の健康状態を把握してもらっている。	併設施設と医療連携体制をとっているため、看護師と24時間連絡が取れ、相談や訪問を受けられるようになっている。また、毎日訪問を受け、入居者の健康状態を把握してもらっている。		
34	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の医療機関の医師が中心となり、地域の医療機関との連携に努めている。入院中も本人が安心して過ごせるように病院側に情報提供したり、認知症の悪化が見込まれる場合は、入院が短期間で済むように日程を調整してもらったりしている。	母体の医療機関の医師が中心となり、地域の医療機関との連携に努めている。入院中も本人が安心して過ごせるように病院側に情報提供したり、認知症の悪化が見込まれる場合は、入院が短期間で済むように日程を調整してもらったりしている。	母体の医療機関の医師が中心となり、地域の医療機関との連携に努めている。入院中も本人が安心して過ごせるように病院側に情報提供したり、認知症の悪化が見込まれる場合は、入院が短期間で済むように日程を調整してもらったりしている。		
35 (15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の心身状態や定期検査の結果などを毎月の連絡票で報告し、血液検査の結果も渡している。必要であれば、主治医、家族、ホーム職員で面談を行い、今後の方針について話し合っている。重度化または終末期となられた入居者に対しては、本人や家族と話し合い、ホームでできるケアの内容を十分に説明し、それでも家族がホームで過ごすことを希望されるのであれば、主治医や併設施設と協力しながら対応している。	本人の心身状態や定期検査の結果などを毎月の連絡票で報告し、血液検査の結果も渡している。必要であれば、主治医、家族、ホーム職員で面談を行い、今後の方針について話し合っている。重度化または終末期となられた入居者に対しては、本人や家族と話し合い、ホームでできるケアの内容を十分に説明し、それでも家族がホームで過ごすことを希望されるのであれば、主治医や併設施設と協力しながら対応している。	本人の心身状態や定期検査の結果などを毎月の連絡票で報告し、血液検査の結果も渡している。必要であれば、主治医、家族、ホーム職員で面談を行い、今後の方針について話し合っている。重度化または終末期となられた入居者に対しては、本人や家族と話し合い、ホームでできるケアの内容を十分に説明し、それでも家族がホームで過ごすことを希望されるのであれば、主治医や併設施設と協力しながら対応している。	事業所としては希望があればできる限り最期まで支援する方針で、契約時にその指針を説明し確認している。早い段階から状況の変化に伴い話し合いを重ね、関係者間の方針共有に努めており、また研修(法人の看護師の協力有り、職員も精神的なことを含む)も実施されている。病院で最期を迎えるケースが多いが、これまでも10名以上(直近は2年前くらい)の看取りを行ってきている。	

R5.11 自己評価及び外部評価(グループホームあかり)確定

己自部外	項目	自己評価 Y1	自己評価 Y2	自己評価 A	外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急法の勉強会を行っており、実際に人形で実演したりAEDの使用方法を学んだりしている。ホームには緊急時のマニュアルを掲示している。また、骨折や窒息など様々な急変や事故の形態に合わせた対応についても勉強会を重ねている。	定期的に救急法の勉強会を行っており、実際に人形で実演したりAEDの使用方法を学んだりしている。ホームには緊急時のマニュアルを掲示している。また、骨折や窒息など様々な急変や事故の形態に合わせた対応についても勉強会を重ねている。	定期的に救急法の勉強会を行っており、実際に人形で実演したりAEDの使用方法を学んだりしている。ホームには緊急時のマニュアルを掲示している。また、骨折や窒息など様々な急変や事故の形態に合わせた対応についても勉強会を重ねている。		
37	(16) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間それぞれの体制で定期的に併設施設との合同訓練を行っている。火災訓練では利用者も一緒に参加してもらうこともあり、消防署の方が定期的に訪問されるので、避難場所の確認、救助方法の確認などを行っている。地震や風水害に対しては、過去に市役所の職員による地震に備えた安全対策や大雨災害時の避難場所などの講習を受けた。現在も定期的にミーティングで避難場所などの再確認を行っている。併設施設には地域の消防団に入っている職員もいる。また、併設施設に防災無線を設置している。	日中、夜間それぞれの体制で定期的に併設施設との合同訓練を行っている。火災訓練では利用者も一緒に参加してもらうこともあり、消防署の方が定期的に訪問されるので、避難場所の確認、救助方法の確認などを行っている。地震や風水害に対しては、過去に市役所の職員による地震に備えた安全対策や大雨災害時の避難場所などの講習を受けた。現在も定期的にミーティングで避難場所などの再確認を行っている。併設施設には地域の消防団に入っている職員もいる。また、併設施設に防災無線を設置している。	日中、夜間それぞれの体制で定期的に併設施設との合同訓練を行っている。火災訓練では利用者も一緒に参加してもらうこともあり、消防署の方が定期的に訪問されるので、避難場所の確認、救助方法の確認などを行っている。地震や風水害に対しては、過去に市役所の職員による地震に備えた安全対策や大雨災害時の避難場所などの講習を受けた。現在も定期的にミーティングで避難場所などの再確認を行っている。併設施設には地域の消防団に入っている職員もいる。また、併設施設に防災無線を設置している。	年2回の防災訓練(火災・地震・水害・土砂災害など。夜間想定も行う。水害についてはハザードマップ上は警戒を要するレベルの地域ではない)を併設施設と合同で、定期的の実施している。職員も災害に対する危機意識と、避難についての認識をマニュアルに基づき共有している。地元の消防団に加入している職員がおり、率先して対応する。併設施設には防災無線の設置もある。家族や近隣住民への訓練実施のアナウンスもっており、参加もある。備蓄物(水・食料)を確保し、期日管理もしている。なお、地域での避難訓練の開催はない、と聞く。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
38	(17) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に接遇や認知症に対する勉強会を行い、一人ひとりに合った声かけや介護方法で、利用者の誇りやプライバシーを守れるよう努めている。カルテや内服薬など個人情報に関するものは目隠しで被い、外部からは見えないように配慮している。契約時に個人情報の取り扱いについての意向を確認(事業所便りやホームページ、施設内の名前・写真の掲示等)するようになっている。	定期的に接遇や認知症に対する勉強会を行い、一人ひとりに合った声かけや介護方法で、利用者の誇りやプライバシーを守れるよう努めている。カルテや内服薬など個人情報に関するものは目隠しで被い、外部からは見えないように配慮している。契約時に個人情報の取り扱いについての意向を確認(事業所便りやホームページ、施設内の名前・写真の掲示等)するようになっている。	定期的に接遇や認知症に対する勉強会を行い、一人ひとりに合った声かけや介護方法で、利用者の誇りやプライバシーを守れるよう努めている。カルテや内服薬など個人情報に関するものは目隠しで被い、外部からは見えないように配慮している。契約時に個人情報の取り扱いについての意向を確認(事業所便りやホームページ、施設内の名前・写真の掲示等)するようになっている。	研修の中で、プライバシー保護や接遇、言葉遣いに関して学んでおり、職員は理解を共有している。トイレのドアの開閉や、入浴時の過度な露出を避ける介助など、その都度細かく指導しており、職員は留意して取り組んでいる。写真などの肖像の利用も含めた同意も確認している。	
39	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や外出時には自分で好みの衣服を選んでもらったり、おやつの時に飲みたい飲み物を選んでもらったりと、小さなことでも自分で決めてもらえるように声かけしている。自分から意思表示されない方には、わかりやすいように聞いかけたり表情などの反応で推測したりして、意思を確認できるよう努めている。	入浴や外出時には自分で好みの衣服を選んでもらったり、おやつの時に飲みたい飲み物を選んでもらったりと、小さなことでも自分で決めてもらえるように声かけしている。自分から意思表示されない方には、わかりやすいように聞いかけたり表情などの反応で推測したりして、意思を確認できるよう努めている。	入浴や外出時には自分で好みの衣服を選んでもらったり、おやつや飲み物を選んでもらったりと、小さなことでも自分で決めてもらえるように声かけしている。自分から意思表示されない方には、わかりやすいように聞いかけたり表情などの反応で推測したりして、意思を確認できるよう努めている。		
40	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れや集団の日課を強制せず、本人の希望やペースに沿った生活を送っていただけるよう努めている。高齢の方や体力が低下している方は、休み時間を長く確保するため入浴やおやつ時間をずらしたり、その日の状態によって起きる時間や休み時間を決めたりしている。	業務の流れや集団の日課を強制せず、本人の希望やペースに沿った生活を送っていただけるよう努めている。高齢の方や体力が低下している方は、休み時間を長く確保するため入浴やおやつ時間をずらしたり、その日の状態によって起きる時間や休み時間を決めたりしている。	業務の流れや集団の日課を強制せず、本人の希望やペースに沿った生活を送っていただけるよう努めている。高齢の方や体力が低下している方は、休み時間を長く確保するため入浴やおやつ時間をずらしたり、その日の状態によって起きる時間や休み時間を決めたりしている。		
41	○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	行事や外出の時におしゃれな服に着替えて頂いたり、お化粧を手伝ったりしている。併設施設に訪問理美容が来ていて、希望に応じてカットだけでなくパーマやカラーも対応してもらっている。希望される方には、毎朝の化粧水と乳液でのスキンケアの支援や、定期的には爪のマニキュアをしている。男性の利用者の方には毎朝髭剃りの準備とお手伝いを行っている。	行事や外出の時におしゃれな服に着替えて頂いたり、お化粧を手伝ったりしている。気分によって1日に何度も着替える方がおられるが、どの服が汚れているかわからなくなってしまうため、不潔にならないようにタンクに一定程度の数を置いて自由に着替えてもらい、定期的に洗濯するようにしている。併設施設に訪問理美容が来ていて、希望に応じてカットだけでなくパーマやカラーも対応してもらっている。希望される方には、毎朝の化粧水と乳液でのスキンケアの支援や、定期的には爪のマニキュアをしている。男性の利用者の方には毎朝髭剃りの準備とお手伝いを行っている。	行事や外出の時におしゃれな服に着替えて頂いたり、お化粧を手伝ったりしている。気分によって1日に何度も着替える方がおられるが、どの服が汚れているかわからなくなってしまうため、不潔にならないようにタンクに一定程度の数を置いて自由に着替えてもらい、定期的に洗濯するようにしている。併設施設に訪問理美容が来ていて、希望に応じてカットだけでなくパーマやカラーも対応してもらっている。希望される方には、毎朝の化粧水と乳液でのスキンケアの支援や、定期的には爪のマニキュアをしている。男性の利用者の方には毎朝髭剃りの準備とお手伝いを行っている。		
42	(18) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回づつ夕食作り、おやつ作りを行っており、利用者の希望や能力に応じて作業を分担している。メニューもできるだけ利用者と一緒に決めるようにしており、畑やプランターで収穫した野菜を使ったり、利用者の誕生日のケーキやお膳を作ったりしている。お花見の季節には中庭の東屋で桜を見ながらお弁当を食べた。また、お彼岸にはおはぎ、秋には栗ごはんなど季節に合わせた料理を作るようにしている。日々の食事も昼・夕食の小鉢をつぎ分けてもらったり、食後の食器を拭いてもらったりしている。	月1回づつ夕食作り、おやつ作りを行っており、利用者の希望や能力に応じて作業を分担している。メニューもできるだけ利用者と一緒に決めるようにしており、畑やプランターで収穫した野菜を使ったり、利用者の誕生日のケーキやお膳を作ったりしている。お彼岸にはおはぎ、秋には栗ごはんなど季節に合わせた料理を作るようにしている。日々の食事も昼・夕食の小鉢をつぎ分けてもらったり、食後の食器を拭いてもらったりしている。	月1回づつ夕食作り、おやつ作りを行っており、利用者の希望や能力に応じて作業を分担している。メニューもできるだけ利用者と一緒に決めるようにしており、畑やプランターで収穫した野菜を使ったり、利用者の誕生日のケーキやお膳を作ったりしている。お彼岸にはおはぎ、秋には栗ごはんなど季節に合わせた料理を作るようにしている。日々の食事も昼・夕食の小鉢をつぎ分けてもらったり、食後の食器を拭いてもらったりしている。	食事は3食とも、併設の老健で調理された物が配膳車で届く。炊飯、汁物の調理(夕食のみ)、盛り付け、つぎ分けなどを事業所で行う。栄養バランスにも配慮され、見た目も食欲をそそる。食事形態、アレルギー、ある程度の嗜好などへの対応は可。畑で採れた作物が事業所職員の手で食卓に並ぶ事もある。配膳、片付けなどは利用者も職員と一緒にやる。加えて、月1回、利用者のリクエストをもとに、事業所で夕食を手作りする(この時は献立の立案、食材の購入などもユニットで行う。「そうめんちり」などの郷土料理を希望することもある)。また月1回、誕生日のケーキを職員が手作りで提供している。職員は、調理をする音や臭い、雰囲気から、利用者を刺激する生活感を残したいと思っている。食事が安全で楽しい時間になるような支援を行っている。	

R5.11 自己評価及び外部評価(グループホームあり)確定

己自部外	項目	自己評価 Y1	自己評価 Y2	自己評価 A	外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立なので、栄養バランスは取れており、本人の状態に合わせて形態を変えたり、塩分を控えたりしている。食事量は毎食記録し、必要人は水分量も記録している。水分を飲もうとされない方には、家族と相談して好みの飲料水などを持ってきてもらっている。	管理栄養士による献立なので、栄養バランスは取れており、本人の状態に合わせて形態を変えたり、塩分を控えたりしている。食事量は毎食記録し、必要人は水分量も記録している。水分を飲もうとされない方には、家族と相談して好みの飲料水などを持ってきてもらっている。栄養状態が悪く食欲もない方には、栄養ゼリーや高栄養ジュースを提供している。	管理栄養士による献立なので、栄養バランスは取れており、本人の状態に合わせて形態を変えたり、塩分を控えたりしている。食事量は毎食記録し、必要人は水分量も記録している。水分を飲もうとされない方には、家族と相談して好みの飲料水などを持ってきてもらっている。栄養状態が悪く食欲もない方には、栄養ゼリーや高栄養ジュースを提供している。		
44	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。本人の状態に応じて声かけや介助を行い、物品も使い分けしている(義歯ブラシ、スポンジブラシ、ワンタフトブラシなど)。夜は義歯を洗浄するようになっている。介助が必要な方には、洗面所に手順を書いたもの貼り、同じ方法で職員が支援できるようにしている。毎月歯科衛生士の方から歯磨きや口腔内の清潔に保つためのポイントなどの情報を教えて頂き、職員で共有している。	毎食後に口腔ケアを行っている。本人の状態に応じて声かけや介助を行い、物品も使い分けしている(義歯ブラシ、スポンジブラシ、ワンタフトブラシなど)。夜は義歯を洗浄するようになっている。介助が必要な方には、洗面所に手順を書いたもの貼り、同じ方法で職員が支援できるようにしている。毎月歯科衛生士の方から歯磨きや口腔内の清潔に保つためのポイントなどの情報を教えて頂き、職員で共有している。	毎食後に口腔ケアを行っている。本人の状態に応じて声かけや介助を行い、物品も使い分けしている(義歯ブラシ、スポンジブラシ、ワンタフトブラシなど)。夜は義歯を洗浄するようになっている。介助が必要な方には、洗面所に手順を書いたもの貼り、同じ方法で職員が支援できるようにしている。毎月歯科衛生士の方から歯磨きや口腔内の清潔に保つためのポイントなどの情報を教えて頂き、職員で共有している。		
45 (19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別にその方の排泄パターンに合わせた時間にトイレ誘導を行い、オムツの使用を減らせるように努めている。オムツの種類を使い分けたり、本人の動きや声かけ・介助の方法を統一することで、できるだけ自分で動作を行ってもらえるよう支援している。	個別にその方の排泄パターンに合わせた時間にトイレ誘導を行い、腹圧をかけるなど排泄を促す工夫をして、オムツの使用を減らせるように努めている。オムツの種類を使い分けたり、本人の動きや声かけ・介助の方法を統一することで、できるだけ自分で動作を行ってもらえるよう支援している。	個別にその方の排泄パターンに合わせた時間にトイレ誘導を行い、腹圧をかけるなど排泄を促す工夫をして、オムツの使用を減らせるように努めている。オムツの種類を使い分けたり、本人の動きや声かけ・介助の方法を統一することで、できるだけ自分で動作を行ってもらえるよう支援している。	トイレはユニット内の共有トイレの他、居室に付いている部屋もある。全員の24時間分の排泄チェック表があり、回数やタイミングなどを管理し、パターンを把握している。トイレ(車いすの介助が可能な共有トイレもあり)での排泄を基本にして声かけ、トイレ誘導をこまめに働きかけている。職員は必要に応じて排便を促すためのマッサージなども行う。利用者ごとのパッド・おむつ等の適切な使用は、なるべく改善できる方向で、担当者がミーティングなどで提案、自立に向けた支援に努めている。	
46	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への動きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に努め、散歩や体操などで身体を動かす機会を多く作っている。管理栄養士による栄養バランスのとれた食事で本人の状態に合わせた食形を提供しているが、水分をあまり飲もうとされない方には、家族と相談して好みの飲料水などを持ってきてもらっている。	水分摂取に努め、散歩や体操などで身体を動かす機会を多く作っている。管理栄養士による栄養バランスのとれた食事で本人の状態に合わせた食形を提供しているが、水分をあまり飲もうとされない方には、家族と相談して好みの飲料水などを持ってきてもらっている。	水分摂取に努め、散歩や体操などで身体を動かす機会を多く作っている。管理栄養士による栄養バランスのとれた食事で本人の状態に合わせた食形を提供しているが、水分をあまり飲もうとされない方には、家族と相談して好みの飲料水などを持ってきてもらっている。		
47 (20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人によって好みの湯温にしたり、湯量を調整したりして、安心して快適に入浴してもらえよう努めている。体力が低下している方は、入浴の前後に休んでもらったり、体調に応じて日時を変更したりしている。本人の参加される活動と重ならないように日時を決めている。異性が苦手な方は、同性の職員が入浴支援をしている。	人によって好みの湯温にしたり、湯量を調整したりして、安心して快適に入浴してもらえよう努めている。体力が低下している方は、入浴の前後に休んでもらったり、体調に応じて日時を変更したりしている。本人の参加される活動と重ならないように日時を決めている。	人によって好みの湯温にしたり、湯量を調整したりして、安心して快適に入浴してもらえよう努めている。体力が低下している方は、入浴の前後に休んでもらったり、体調に応じて日時を変更したりしている。本人の参加される活動と重ならないように日時を決めている。	一方向から介助ができるユニットバスに個浴で、利用者は基本的に週2~3回、それぞれの状態に応じた支援で入浴する。抱まれる方もタイミングを見計らったり、対応も変えたり、「お風呂のあとのコーヒーは格別においしいですよ」などと誘導したりして、動きかけ。好みの温度に調節した浴槽に浸かってのんびりしてもらいながら、職員もコミュニケーションをとって、入浴が楽しくなるように努めている。皮膚観察や体調の把握の場としても役立てている。	
48	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は散歩に行って太陽や風にあたってもらったり、体操など体を動かす活動を取り入れている。室内空調を好みに合わせて調整したり、冬は湯たんぽを入れたりしてぐっすり眠って頂けるよう努めている。マットや枕、毛布など本人の希望や状態に応じて家族が持ってきてくださることもある。休息の確保のため、体調を見ながら、自室で横になられる時間を持ってもらうようになっている。	昼間は散歩に行って太陽や風にあたってもらったり、体操など体を動かす活動を取り入れている。室内空調を好みに合わせて調整したり、冬は湯たんぽを入れたりしてぐっすり眠って頂けるよう努めている。マットや枕、毛布など本人の希望や状態に応じて家族が持ってきてくださることもある。休息の確保のため、体調を見ながら、自室で横になられる時間を持ってもらうようになっている。	昼間は散歩に行って太陽や風にあたってもらったり、体操など体を動かす活動を取り入れている。室内空調を好みに合わせて調整したり、冬は湯たんぽを入れたりしてぐっすり眠って頂けるよう努めている。マットや枕、毛布など本人の希望や状態に応じて家族が持ってきてくださることもある。休息の確保のため、体調を見ながら、自室で横になられる時間を持ってもらうようになっている。		
49	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院や薬局からもらう薬の名称・効能の表を活用して、職員が正しく薬を理解できるように努めている。副作用の出やすい薬については、主治医からも注意点を聞いて特に注意して観察するようになっている。拒薬される方もあるため、確実に服薬して頂けるように個々の状態に合わせて介助方法を決め、統一して対応している。	病院や薬局からもらう薬の名称・効能の表を活用して、職員が正しく薬を理解できるように努めている。副作用の出やすい薬については、主治医からも注意点を聞いて特に注意して観察するようになっている。拒薬される方もあるため、確実に服薬して頂けるように個々の状態に合わせて介助方法を決め、統一して対応している。	病院や薬局からもらう薬の名称・効能の表を活用して、職員が正しく薬を理解できるように努めている。副作用の出やすい薬については、主治医からも注意点を聞いて特に注意して観察するようになっている。拒薬される方もあるため、確実に服薬して頂けるように個々の状態に合わせて介助方法を決め、統一して対応している。		
50	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の仕事や趣味、得意分野を聞き取り、活躍の場や話題を提供している(家事がお好きな方は食器拭きや小鉢のつき分けなど)。また、コーヒーやヨーグルトなどがお好きな方は個人分を預かって提供したりして、楽しみごとを支援している。またクラシックや釣りがお好きな方には録画をしてテレビで観て頂いている。	以前の仕事や趣味、得意分野を聞き取り、活躍の場や話題を提供している(録物が得意な方に布巾を作ってもらうなど)。また、コーヒーやゼリーなどがお好きな方は個人分を預かって提供したり、パンがお好きな方を週1回購入にお連れしたりして、楽しみごとを支援している。歌がお好きな方が多いので、テレビで歌のCDを流しながらお手伝いをしてもらうなどしている。	以前の仕事や趣味、得意分野を聞き取り、活躍の場や話題を提供している(録物が得意な方に布巾を作ってもらうなど)。また、コーヒーやゼリーなどがお好きな方は個人分を預かって提供したり、パンがお好きな方を週1回購入にお連れしたりして、楽しみごとを支援している。歌がお好きな方が多いので、テレビで歌のCDを流しながらお手伝いをしてもらうなどしている。		

R5.11 自己評価及び外部評価(グループホームあり)確定

己自部外	項目	自己評価 Y1	自己評価 Y2	自己評価 A	外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍では中庭への散歩やドライブ、東屋でおやつを食べてもらったりしていた。5類移行後は本人や家族と相談し、自宅にお連れして家族の方と一緒に過ごしてもらったり、ご家族と外食に行かれたりされている。また、散歩も兼ねて近所のお店にお連れし、花や苗を見て楽しめる。	コロナ禍では中庭への散歩やドライブ、東屋でおやつを食べてもらったりしていた。5類移行後は本人や家族と相談し、自宅にお連れして家族の方と一緒に過ごしてもらったり、ご家族と外食に行かれたりされている。	コロナ禍では中庭への散歩やドライブ、東屋でおやつを食べてもらったりしていた。5類移行後は本人や家族と相談し、自宅にお連れして家族の方と一緒に過ごしてもらったり、ご家族と外食に行かれたりされている。また、受診の行き帰りで日用品などの買い物もされている。	コロナが落ち着きを見せて、外出も徐々にではあるが、機会を増やしている。個別もしくは小人数での対応には、近隣の散歩、買物、他科受診(通院)の他、季節の花のきれいな所へドライブに行ったり、また雷山の紅葉見物、伊都文化会館や歴史資料館、二丈町のこのほり見学などに出掛けしている。事業所の敷地が広く、敷地内の東屋(あずまや)のある中庭や畑まで歩いて、外気浴を楽しむのも、ちよつとした外出気分を味わえる。畑では芋掘りなども行う。近場であっても利用者は外出を非常に喜ばれることもあって、コロナ収束の折には外出を思い切り楽しめたいと、職員は思っている。	遠くへの外出、大掛かりな外出を求めるのではなく、小人数でのちよつとしたお出掛けを、急に思い出したようなもので構わない。そしてできれば家族や地域の支援を仰ぎながら、これからも前向きに行っていたことを期待したい。
52	○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことへの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持してもらおうとしても、それが気になって被害妄想が出てしまうことが多いため、現入居者の方の所持はない。	お金を所持してもらおうとしても、それが気になって被害妄想が出てしまうことが多いため、現入居者の方の所持はない。	お金を所持してもらおうとしても、それが気になって被害妄想が出てしまうことが多いため、現入居者の方の所持はない。ホームで少額を預かり、受診やパンの購入の時に本人に財布をお渡しして、自分で払ってもらうよう支援している方はおられる。		
53	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人から電話がかかってきた場合は取次ぎ、ゆっくり話してもらえようように配慮している。また、携帯電話を持っている方もおられ、好きな時に電話やメールをされている方もいる。年賀状など送られてきた場合は、本人・家族に見て頂いてから部屋に飾るなどしている。職員がお手伝いすることで字が書ける方には、返事を書いて郵送したこともある。	家族や友人から電話がかかってきた場合は取次ぎ、ゆっくり話してもらえようように配慮している。また、携帯電話を持っている方もおられ、好きな時に電話やメールをされている方もいる。年賀状など送られてきた場合は、本人・家族に見て頂いてから部屋に飾るなどしている。職員がお手伝いすることで字が書ける方には、返事を書いて郵送したこともある。	家族や友人から電話がかかってきた場合は取次ぎ、ゆっくり話してもらえようように配慮している。また、携帯電話を持っている方もおられ、好きな時に電話やメールをされている方もいる。年賀状など送られてきた場合は、本人・家族に見て頂いてから部屋に飾るなどしている。職員がお手伝いすることで字が書ける方には、返事を書いて郵送したこともある。		
54	(22) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調の床材や壁材を持ち、落ち着いた雰囲気を作っている。和室もあり、ロビーやベランダにベンチを置いているので、くつろぐこともできる。壁に季節に合った作品を掲示したり、利用者が散歩で摘んできた花をロビーに飾るなどして、季節を感じてもらえるようにしている。	木目調の床材や壁材を持ち、落ち着いた雰囲気を作っている。和室もあり、ロビーやベランダにベンチを置いているので、くつろぐこともできる。壁に季節に合った作品を掲示したり、利用者が散歩で摘んできた花をロビーに飾るなどして、季節を感じてもらえるようにしている。	木目調の床材や壁材を持ち、落ち着いた雰囲気を作っている。和室もあり、ロビーやベランダにベンチを置いているので、くつろぐこともできる。壁に季節に合った作品を掲示したり、利用者が散歩で摘んできた花をロビーに飾るなどして、季節を感じてもらえるようにしている。	3ユニットのうち、1ユニット(「グループホームあり」と称している)は別の建物にあり、3室は1人部屋だが、残りの3室は仕切られてはいるものの2人部屋になっている。残りの2ユニット(「グループホームゆうゆう」と称している)は各ユニットが建物の1・2階にあり、こちらは基本的には個室だが、隣室との間が移動式壁になっている部屋は、部屋続の2人部屋にすることができる。また畳敷きの和室が各ユニット1室ずつ、またトイレがついている部屋とついていない部屋がある。どのユニットも床は木目調のフローリング敷で、家庭的な雰囲気がある。台所・食事室を兼ねたりベランダからは居室が直線につながっており、職員が目が届く。利用者はリビングなどの共有スペースやベランダなどで、配置されたソファ、ベンチにかけてくつろいで過ごすことが多い。窓からの景色や、飾られた利用者の作品、花(散歩途中で利用者が摘んできた花が生けられていた)などから、季節を感じることが出来る。	
55	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーの席は相性の良い利用者が近くなるよう配慮している。和室の端に座布団を敷いて思い思いに過ごせるようにしている。また、中庭に散歩を兼ねて出かけ、花や畑の野菜を見たり、東屋で歌を唄ったりして過ごせるようになっている。	ロビーの席は相性の良い利用者が近くなるよう配慮している。廊下やベランダにベンチを置いたり、和室の端に座布団を敷いて思い思いに過ごせるようにしている。中庭に散歩を兼ねて出かけ、花や畑の野菜を見たり、あずま屋で歌を唄ったりして過ごせるようになっている。	ロビーの席は相性の良い利用者が近くなるよう配慮している。廊下やベランダにベンチを置いたり、和室の端に座布団を敷いて思い思いに過ごせるようにしている。中庭に散歩を兼ねて出かけ、花や畑の野菜を見たり、あずま屋で歌を唄ったりして過ごせるようになっている。		
56	(23) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に置ける範囲内で、好みのソファや椅子を持ってこられている。お位牌を持ってこられている方もいる。壁に家族の写真や本人の作品、好きな飾り物を飾ったりして、本人らしい部屋になるように工夫している。	部屋に置ける範囲内で、好みのソファや椅子を持ってこられている。お位牌を持ってこられている方もいる。壁に家族の写真や本人の作品、好きな飾り物を飾ったりして、本人らしい部屋になるように工夫している。	部屋に置ける範囲内で、好みのソファや椅子を持ってこられている。お位牌を持ってこられている方もいる。壁に家族の写真や本人の作品、好きな飾り物を飾ったりして、本人らしい部屋になるように工夫している。	ベッド・床頭台・洗面台・エアコンが備え付けで、収納は広く用意されている。仏壇や位牌、テレビ、座いす、箆笥、家族の写真や作品等、使い慣れた物や愛着のある物など、持ち込みも自由にされている。畳敷きの部屋もある。職員は安全で過ごしやすいレイアウトにも気を配り、本人が安心して穏やかに過ごせる部屋づくりの支援を行っている。	
57	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で安全に暮らせる工夫がある。自立して安全に移動できるように随所に手すりや滑り止めマットを設置している。自室がわかりにくい方のために入口に写真入りや表札をかけた、トイレの表示を工夫したりしている。転倒防止のために、伝い歩きができるよう動線に沿って家具を配置したり、昼夜で家具の配置を変更したりしている。	バリアフリー構造で安全に暮らせる工夫がある。自立して安全に移動できるように随所に手すりや滑り止めマットを設置している。自室がわかりにくい方のために入口に写真入りや表札をかけた、トイレの表示を工夫したりしている。転倒防止のために、伝い歩きができるよう動線に沿って家具を配置したり、昼夜で家具の配置を変更したりしている。	バリアフリー構造で安全に暮らせる工夫がある。自立して安全に移動できるように随所に手すりや滑り止めマットを設置している。自室がわかりにくい方のために入口に写真入りや表札をかけた、トイレの表示を工夫したりしている。転倒防止のために、伝い歩きができるよう動線に沿って家具を配置したり、昼夜で家具の配置を変更したりしている。		